

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	神奈川大学 経営学部 国際経営学科	実施時期	2013 年度 前期 : 後期
対象学年・学期・人数	3、4 年生・後期・73 名		
講座名	経営学特殊講義		
連携企業・団体	一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会		
支援・連携の類型	連携団体の作成テキストとハンドブックにより講座を実施(講師派遣型)		
講座の概要・特徴	<p>SEの仕事について講師の経験を踏まえて解説し、理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして視野に捉えて考察する場を提供する。</p> <p>講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使った授業でSEの仕事に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話を受講生に紹介することで、業界の現状を正しく伝える。</p>		
産学連携検討の背景	<p>経営学部としては実学を重視しており、産学連携事業については銀行論などについて既に複数の企業や銀行から講座を頂いていた。また情報系企業へ就職する学生もおり、情報系で実学を教育できる可能性を検討していた。情報関連担当教員が神奈川経済同友会主催の産学連携チャレンジプログラムの表彰式で、企業担当者からこの「SE講座」が「神奈川県情報サービス産業協会」主宰で行われていることを聞き、神奈川大学経営学部への導入を依頼し、2008年度より実施に至った(6年間実施)。</p>		
連携の狙い、目的・目標	<p>大学での教育は理論中心となり、学生にとって、具体的イメージを持つに至らない。また学生アンケートからも学生は働くことについて不安感があった。そこで、企業人に実際の体験や開発したソフトウェアなどを紹介していただくことにより、具体性・実践性を理解させることが目的である。</p>		
連携にあたっての課題・懸念	<p>担当して下さる講師の方達は熱心に教育を行って下さるが、学生の中には真面目に聞かない学生もおり、失礼になってしまうことがあること。情報の専門的内容もあり、経営学部の学生の理解が難しい箇所を、分かりやすくご教授いただいている。</p>		

講座の位置づけ 既存講座との関係	2 年次生対象の「情報システム設計論」の後続科目
履修前提条件	特になし
授業準備と実施の 体制	授業開始 1 週間前に事務局より教材のパワーポイントと講義の要約とアンケートがコーディネータ宛にメール添付で送られてくる。それを LMS (Learning Management System) を利用して、ネット上にアップする。学生には毎回、アンケートと講義を聴いてまとめたもの講義メモ (1600 文字以上) を課題として提出させている。アンケートの集計と学生が提出した講義メモをまとめて、講義終了後、1 週間以内に事務局と講義実施担当教員に送る。
成績評価の方法	毎回のアンケートと講義メモ、期末試験の 3 つを元に評価する。

講座の構成 (シラバス)	単元と時間配分 (1コマ=90 分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	3 項の「支援企業・団体からの情報」参照	なし	

演習・実習の内容 必要なマシン環境等	講義室での授業であるため、特に必要なマシン環境は必要ない。 但し、アンケートや講義メモを書くために学生にはノートパソコンの持ち込みを可としているため、学生は自分のパソコン、または学内のメディア支援室から借りたパソコンを用いてメモをとりながら講義を聴くことになる。教材を LMS からプリントして持ってくる学生が多いが、LMS 上の教材をノートパソコンで参照しながら聴く学生もおり、その場合は学内の無線 LAN 環境を利用している。
-----------------------	--

2. 講座実施後の情報

<p>受講者の声（受講目的、修得目標）</p>	<p>カリキュラム関連を除いて、「SE という用語に興味があった」、「キャリア形成に役立つ」、「毎回講師が変わる」ということなどが、受講生の受講目的であった。</p> <div data-bbox="477 483 1337 931" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">受講生の履修目的</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>履修目的</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B群科目として必要</td> <td>41%</td> </tr> <tr> <td>SEという用語に興味</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成に役立つ</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>毎回、講師が変わる</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>時間割の時間があいていた</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>友人の薦めで</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>先生の勧めで</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	履修目的	割合	B群科目として必要	41%	SEという用語に興味	16%	キャリア形成に役立つ	16%	毎回、講師が変わる	14%	時間割の時間があいていた	5%	友人の薦めで	5%	先生の勧めで	3%
履修目的	割合																
B群科目として必要	41%																
SEという用語に興味	16%																
キャリア形成に役立つ	16%																
毎回、講師が変わる	14%																
時間割の時間があいていた	5%																
友人の薦めで	5%																
先生の勧めで	3%																
<p>受講者の感想（本講座で得られたもの）</p>	<p>毎回アンケートをとっているので、データとしてはたくさんある。大きくまとめると、「文系学生でも情報系企業で活躍できることが分かったこと」、「就職して仕事をするということが分かったこと」、「キャリア形成をしていくことが必要なこと」、「コミュニケーション能力が必要なこと」など、社会人としての心構えや夢を持つことができたことなどがあがっており、全体的に高評価であった。</p>																
<p>先生の評価</p>	<p>学生達にとって、非常に高い評価の講義である。教材作成についても素晴らしいものが有り、教員にとっても刺激となっている。また実際に開発されたシステムを見せていただくことにより、学生達にとっては現実感を得ることができ、理解度を増すことができる点は、専任教員にはできないことである。</p>																
<p>企業・団体による評価</p>	<p>120名を越す学生にIT業界について知って貰える場を頂けたことは意義がある。毎回の講義にそれぞれの担当教授が積極的に関わって頂いて当講座への大学としての協力的姿勢を感じる。</p> <p>課題及び改善点としては受講対象となる学生が経営学部と理学部にまたがっており、講師の講義内容が焦点を絞りづらい所が上げられる。</p>																
<p>今後の展望（継続に向けた課題）</p>																	

3. 支援企業・団体からの情報(神情協記入事項)

提供教材・コンテンツ情報	講座名称 : 大学向けSE講座 講義形式 : SE講座講師が独自に作成した教材を元に PPT で講義を行う。		
提供元	神奈川県情報サービス産業協会 (会員企業の認定講師)	費用 (標準価格)	①講座費用(別途調整) ②テキスト有償(SEハンドブック)
支援の目的・目標	SEの業務について講師の経験を踏まえて解説し、仕事内容に理解を深め、さらに講師自身の経験に基づく業界の話により、業界の現状と業界が求める人物像を受講生に伝える。 理系・文系さらには男女を問わず、IT業界を進路選択の一つとして考察いただき、受講生の多くがIT業界に進路を選択をする事を目標とする。		
具体的な支援内容または提供教材の内容	講義は、協会で編纂した手引き書(SEハンドブック)を元に、担当講師が独自に作成した教材を使用し講義を行う。 注記:SEハンドブックの詳細は別紙添付。		
講座実施における企業・団体の役割	下記の 14 回の講座を団体が提供し、各回の講師は会員企業より認定されたSE講座講師が実施する。 講義 : 01(ガイダンス) 講義 : 02(SEとは) 講義 : 03(SEのマネジメントスキル) 講義 : 04(情報システムの企画と提案) 講義 : 05(システム設計の概要) 講義 : 06(システムテストと運用テストの意義) 講義 : 07(情報サービス産業界の現状) 講義 : 08(データベースの知識) 講義 : 09(ネットワークの知識) 講義 : 10(情報セキュリティと個人情報保護) 講義 : 11(プロジェクトマネジメント) 講義 : 12(SEのベーススキルと関連知識) 講義 : 13(特別講義、システム化事例紹介) 講義 : 14(授業全般の総括とまとめ)		
企業・団体からの推薦コメント	神情協会員企業の中からSE講座講師審査会で資格認定された講師が各回の講義を行う。 講義は、毎回違う講師(企業)がご自身の経験や実績を踏まえて講義を行うため 13 名(複数企業)の講師の講義を受ける事となる。		

	<p>講師企業にはメーカー系、ユーザー系、独立系等の企業があり、企業規模も大企業から、中小企業さらにはベンチャー企業まで幅広い講師（企業）が担当することとなり、受講生にIT業界の多くの可能性を紹介する。</p> <p>この授業には利用者側の教員も参加頂き、教育に積極的に関与して頂く。</p>
--	---